

災害発生後・医師や看護師が 近所にはいなくなる？

8年前の東日本大震災、あるいはそれ以上の規模で首都圏一帯を地震が襲った場合、電話やメールでの通信が機能しなくなり、更に幹線道路が大渋滞を引き起こすことで車両での移動が難しくなります。医療機関については、風早北部地域には総合病院がないため、救急救命を必要とする市民にとっては不安が高まる可能性が出てきます。

手賀大橋が通れなくなります

手賀大橋と県道船橋取手線は、大規模災害発生後は緊急車両通行が優先されるため一般車両の通行が制約され、通行できなくなる可能性が高くなると考えておきましょう。これにより、風早北部地域内に不足している総合病院が橋の向こうである我孫子市側には幾つかありますが、そこまで辿り着くのにかなりの時間を要する羽目になります。



医師や看護師が他の地域へ招集され 近所からいなくなってしまう

膨大な被害が発生した他の地域への対応のため、消防隊・消防団、更には医療関係者に招集指令が発せられ、レスキュー隊や医師・看護師のほとんどが、最悪の場合風早北部地域からいなくなってしまう。総合病院などの医療施設が招集場所となれば、そうした施設がない地域には医療関係者がいなくなるという理屈です。

前出の手賀大橋不通とともに、大規模発生時の医療体制がまったく不透明であることが当地域の大きな課題となっています。いざという時に、病院がない、医師や看護師がいない時、あなたはどうしますか？

★★こうした状況を打開する事前の方策★★

- 医師や看護師・レスキュー隊のお世話にならない、即ち怪我をしないための準備を。具体的には、屋内家具の転倒防止措置、逃げ遅れて閉じ込められないよう脱出口・手段の確保(ドアストッパーやSOS用ホイッスルの用意)、ガラスの破片で負傷するような事態にならないよう寝室にも運動靴や懐中電灯を配備しておきましょう
- 負傷者を助ける術(スベ)を身につけましょう
止血剤や包帯を使って応急措置が出来るような訓練・講習会に奮って参加しましょう
- ご自宅から最寄りの総合病院までの複数のルートを図上で把握しておきましょう
- 各地域地縁団体において地域の医師や看護師と非常時の連携について話し合っておきましょう
- 市行政に対して地域医療体制の整備を求める運動を興しましょう(総合病院の誘致を私たちの住む風早北部地域へ！)

